

財団法人横浜市ふるさと歴史財団 平成20年度事業計画

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

はじめに

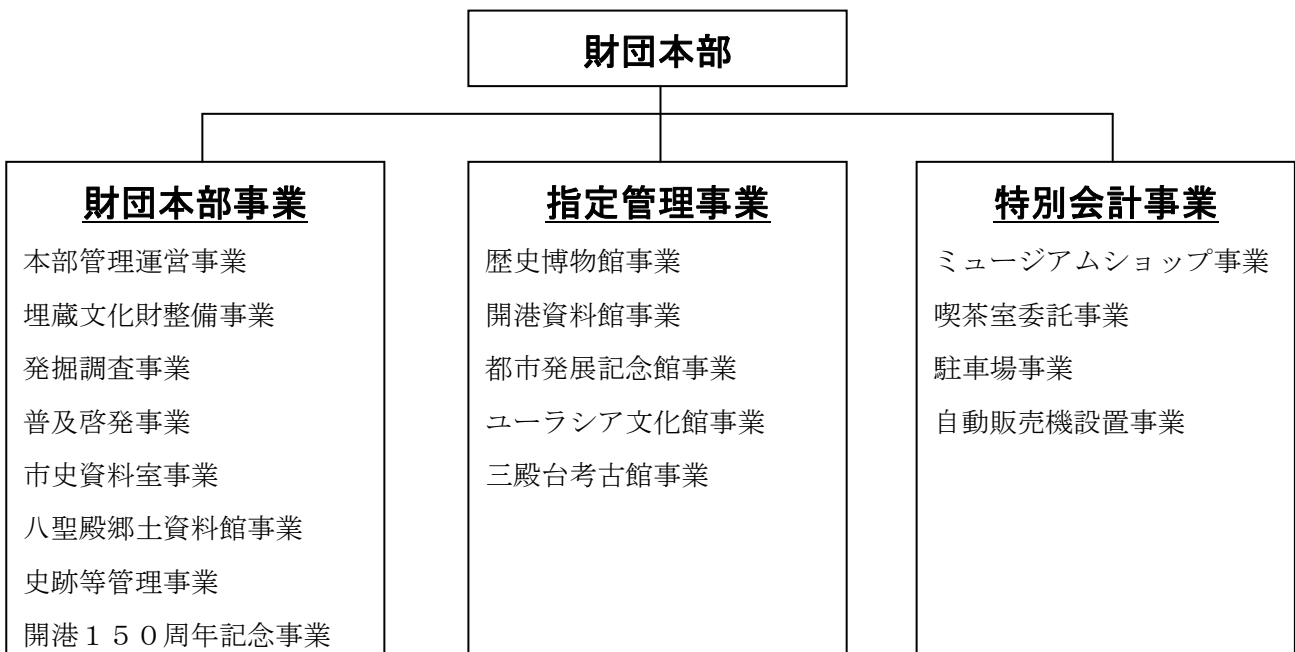
当財団は、横浜市との連携のもとに、市民のふるさと意識の醸成及び市民文化の発展に寄与することを目的に、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管および公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を進めてきています。

平成20年度は、歴史博物館など5施設の指定管理者として3年目を迎えます。指定管理者として、財団組織の整備、企画事業の改善、評価制度の導入など積極的に取り組み、相当の成果をおさめてきましたが、さらにこれらの改革を着実に推し進め、サービス向上と事業改善へつなげていきます。

横浜市と結んだ『協約』についても、公益的使命の達成、財務の改善、業務・組織の改革に向けて一層努力してまいります。

平成20年度は、市民により親しんでもらえる企画展を開催するとともに、平成21年に迎える開港150周年に向けて、図説『横浜 歴史と文化』の発行準備を進めるとともに、事業全体で施設連携を強めながら財団の総力をあげて取り組んでいきます。

横浜市の文化行政の一翼を担いつつ、これまで各種の事業を展開してきましたが、今後は、今までにも増して自己点検を怠らず、より魅力的な事業を展開し、歴史や文化財の普及啓発に取り組んでまいります。



I 財団本部事業

(事業予算 287,924千円)

[運営方針]

財団が横浜市からこれまで受託してきた埋蔵文化財整備事業・発掘調査事業・普及啓発事業・市史資料室事業・八聖殿郷土資料館事業・史跡等管理事業について、引き続き行っていくとともに、横浜市から指定管理施設として指定を受けた歴史博物館・開港資料館・都市発展記念館・ユーラシア文化館・三殿台考古館の各事業の全体調整を行い、より効率的・効果的な経営を目指していきます。

1 本部管理運営事業（寄附行為第4条第8号）

指定管理施設が連携して行う各事業について全体調整を行い、また、財団法人横浜市ふるさと歴史財団理事会・評議員会運営事務、その他本部事務を行います。

- (1) 指定管理施設が連携して行う各事業の全体調整
- (2) 理事会・評議員会の開催等
- (3) 財団人事・労務・財務の管理、研修の実施等
- (4) 財団外部評価委員会に関すること
- (5) その他本部事務

2 埋蔵文化財整備事業（寄附行為第4条第1・5号）

埋蔵文化財センターで、港北ニュータウン開発に伴う出土品・遺構測量図等の記録資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめます。出土品・記録類は適正に保管し、展示・講座等に活用します。

- (1) 遺物整理・調査研究

項目	対象遺跡等	所在地
遺物整理・調査研究	北川表の上遺跡発掘遺物の整理（5／5年次）	都筑区早瀬3丁目
	大榎杉山神社遺跡発掘遺物の整理（1／2年次）	都筑区中川中央1丁目

- (2) 報告書発行

項目	対象遺跡等	所在地
報告書発行	華蔵台遺跡（平成15～19年度整理分）	都筑区荏田南5丁目

- (3) 資料保管・整理

項目	目的・意図
資料デジタル化	フィルムのデジタル化と整理を行い、写真資料使用の利便性向上と普及啓発・資料貸出などの業務に資する。
出土品保管・再整備	収蔵・保管されている出土品について整備し、データ化を進める。



遺物整理

3 発掘調査事業（寄附行為第4条第3号）

文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の発掘調査及び発掘調査の成果を整理し、報告書を刊行する業務を、横浜市等から受託します。

（1）発掘調査

項 目	対象遺跡等	委託者／所在地
中区 No. 12 遺跡 (平台貝塚)	既存道路の拡幅事業関連	横浜市中区役所 県立緑ヶ丘高校付近

（2）整理報告書作成

項 目	対象遺跡等	委託者
中区 No. 12 遺跡 (平台貝塚)	既存道路の拡幅事業関連	横浜市中区役所 県立緑ヶ丘高校付近



発掘調査



貝塚の発掘見学会

4 普及啓発事業（寄附行為第4条第2・5号）

埋蔵文化財センターの調査・研究の成果を市民に還元するとともに、埋蔵文化財保護への一般の関心を高めるため、広報誌発行や遺跡見学会の開催・貸出展示・講演会等を行うほか、歴史博物館での講演会や埋蔵文化財出土地域での展示・講演会なども実施していきます。

項 目	参加者見込数	目的・意図
「地面の下にはナニかあるー栄・戸塚区の遺跡ー」展 平成20年夏	各 800 人	埋蔵文化財出土地域での展示を行う。 あわせて地元郷土史団体の展示および協働講座・体験学習を行う。無料。 会場：未定（栄区内の会場を予定）
文化財ウィーク事業 「鶴見区の遺跡」展 平成20年秋	1,600 人	文化財課が実施する文化財ウィーク事業に協力し、市内図書館で写真パネルおよび遺物の展示を行い、該当地域の埋蔵文化財を紹介する。あわせて研究講座・体験学習を行う。無料。 会場：鶴見図書館
企画展の開催 「横浜の遺跡」展 平成20年12月6日（土） ～平成21年1月12日（月）	3,000 人	平成20年度横浜市指定・登録文化財展にあわせ、港北ニュータウン文化財整備事業のうち、整理作業が終了し調査報告書を刊行した遺跡、あるいは発掘調査事業で調査を実施した中で話題性のある遺跡について速報的に紹介する。無料。 会期中研究講座を1回実施する。 会場：横浜市歴史博物館

考古学入門講座 8月上旬 (連続3回)	30人	小学生親子を対象に考古学についての初歩的な内容および遺跡の見学を行う。 会場：横浜市歴史博物館
考古学講座 平成20年11月7日(金) ～平成20年11月28日(金) (連続4回)	140人	専門職員を講師として埋蔵文化財に関する講座を開催する。同時にパネル展を実施する。 会場：横浜市歴史博物館
体験学習 6・7・8・10・12・2月 最終土曜日	各15人	体験型の啓発活動を通して、参加者の興味を惹くことで、埋蔵文化財の理解を深める。 会場：埋蔵文化財センター
広報誌等の発行		「埋文よこはま」を発行する。 (発行12,000部、年2回)
遺跡見学の案内		茅ヶ崎城・稲荷前古墳群・市ヶ尾横穴群等への見学者の案内を行う。
資料の貸出・展示		写真フィルムの有料貸出を行う。 学校・地区センター・区役所等で地域に関連する遺物等の貸出・展示を行う。
講師派遣		文化団体、サークル等の講演会へ専門職員を派遣する。



三殿台講座



横浜の遺跡展



体験学習

5 市史資料室事業（寄附行為第4条第1・2号）

横浜州市史資料室の調査・研究の成果を市民に還元するために、横浜市中心図書館で資料の閲覧業務を実施します。

項目	利用者見込数	目的・意図
閲覧室運営	3,500人	資料及び昭和期以降の横浜の歴史に関するレファレンスの対応を行う。
資料の保管・管理		資料を適切に保管・管理し、資料台帳データの点検、更新および資料検索性目録の処理を行う。
資料の収集、調査、整理		歴史的公文書および昭和期以降の歴史的資料の収集、調査および新規に受け入れた資料の整理を行う。

情報発信、普及広報	3,500人	市史資料室にて、資料の公開展示を行う。 公開資料：未定
		ホームページに、目録情報や所蔵資料概要を掲載し、資料の電子公開を行う。 アクセス件数：10,000件

6 八聖殿郷土資料館事業（寄附行為第4条第7号）

横浜市の歴史・文化財関連諸施設である同館の維持管理および運営を行います。

項目	目的・意図
横浜市八聖殿郷土資料館の管理	昭和8年建造の資料館で、八聖人像と市内旧農漁村で使用されていた漁具・民具を展示する。無料。 所在地：中区本牧元町
普及啓発	市民対象の講座の開催や、ウォーキングマップ等の発行により、情報発信を行う。



八聖殿外観



漁具展示（1階）



民具展示（2階）

7 史跡等管理事業（寄附行為第4条第7号）

横浜市域の文化財である、国指定史跡称名寺境内・県指定史跡稲荷前古墳群・県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群・上行寺東遺跡復元整備地の維持管理を行います。

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡 称名寺境内	所在地：金沢区金沢町
県指定史跡 稲荷前古墳群	所在地：青葉区大場町
県指定史跡 市ヶ尾横穴古墳群	所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	所在地：金沢区六浦二丁目



称名寺境内



稲荷前古墳群



市ヶ尾横穴古墳群



上行寺東遺跡

Ⅱ 開港150周年記念事業

(事業予算 4,301千円)

[運営方針]

平成21年に迎える「横浜開港150周年」を記念して、歴史博物館・開港資料館・都市発展記念館・ユーラシア文化館・埋蔵文化財センターは、「横浜開港」を通史の観点から再検証し、その成果を各施設の連携により、展示、講座・講演会、体験学習、出版事業等に生かします。

本年度は、図説「横浜 歴史と文化」の発行事業の推進、開港150周年記念プレ事業としての連続講座及び開港150周年100日前特別講演会を実施します。

また、平成21年度の企画事業の検討、横浜市及び関連団体との意見調整を行います。記念事業費については引き続き積み立てます。

1 図説『横浜 歴史と文化』(仮称)発行事業(寄附行為第4条第5号)

横浜開港150周年記念出版を実現すべく、前年度からプロジェクトチームを発足し、財団の総力をあげて平成21年度の開港記念日を期して、準備を開始しています。各施設の最新の研究成果を盛り込み、開港期を中心にしつつも横浜の全歴史を通観でき、字数は少なく図版を中心とすることで、読みやすい図説『横浜 歴史と文化』の製作を目指します。

本年度は、原稿を確定し、出版準備を進めます。

2 企画普及事業(寄附行為第4条第2・4・5・6・8号)

(1) 150周年記念事業広報等の企画

平成21年度に各館で実施する150周年企画展示の共同広報や講座・講演会の検討を進める。

(2) 施設間共同事業

これまで施設間で連携して実施していた講座等事業を引き続き実施する。受講料等の収益は、150周年記念事業の原資として積み立てる。

項目	参加者見込数	目的・意図
通史講座「横浜の歴史」 平成20年5月14日(水) ～6月11日(水)	各回180人	横浜の歴史を通史として紹介する5回の連続講座を開催する。 会場：横浜市歴史博物館 講師：各館専門職員
開港150周年記念プレ講座 「海上交通の歴史と横浜」 平成20年6月18日(水) ～7月16日(水)	各回180人	横浜の港にまつわる5回の連続講座を開催する。 会場：横浜市歴史博物館 講師：各館専門職員
開港150周年記念特別講演会 平成21年2月22日(日)	300人	開港150周年100日前記念事業として、横浜開港にまつわる特別講演会を開催する。 会場：横浜市開港記念会館 講師：未定

Ⅲ 歴史博物館事業

(事業予算 426,566千円)

[運営方針]

横浜市歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ学ぶのに寄与することを目指します。そのために、高い専門性に裏付けられた事業を進めるとともに、地域や学校との連携を一層深めて、市民の期待や要望に即した活動を幅広く展開していきます。

本年度は、学校団体利用促進のための月曜日開館や、集客イベント等を継続する一方、開港150周年プレ事業や、市民との協働による市域調査の実施に向けての準備なども行い、サービス向上と積極的な業務内容の改善、運営の効率化に努めていきます。

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

(1) 資料の収集

項目	目的・意図
資料の寄贈・寄託	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守る。
実物資料の購入	企画展や常設展で使用する資料を収集。 購入予定：中・近世の海上・陸上交通に関する資料等
レプリカ製作	市域に関する資料の複製等を行う。 複製予定：平城京跡出土「武蔵野国荏原郡大贄」木簡 塚本文書 鶴見寺尾郷関係文書
マイクロ撮影	市域に関する古文書資料のマイクロフィルム化と整理を行う。 撮影予定：萩原家文書300点

(2) 資料の修繕

古文書の裏打ち、考古資料の修復、美術工芸資料の修復を行う。

修繕予定：北条家船手判朱印、赤羽刀（脇差）

(3) 資料の保存

横浜市歴史博物館 I P M や燻蒸により、収蔵資料・展示資料の保存環境を維持するほか、資料保管箱・土器台座・帙^{ちっ}などの資料保管用品を作成する。

(4) 資料の整理活用

歴史博物館等で保管する考古・歴史・民俗資料の整理を進める。

収蔵資料および展示資料の写真撮影・整理を進め、貸出を行う。

実施予定：データ入力2,000点、写真撮影20件、写真整理・登録600件、インターネット公開50件、写真貸出60件、資料貸出10件、資料熟覧20件

(5) 図書資料の公開

一般図書文献の分類整理を進め、図書閲覧室での公開を行う。

実施予定：図書資料収集3,000点、分類データ入力3,000点

(6) 画像資料等の貸出

画像資料等を有料で貸出し、収益の向上と魅力資源の活用を図る。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

（1）調査研究

項 目	目的・意図	今年度の成果目標
基礎的調査研究1：収蔵資料に関する調査研究		
墓域出土の土器の研究 （1／3年次）	歳勝土遺跡など弥生中期の墓出土の土器に焦点を絞り、具体的な変化がいっ起こったのかを明らかにする。	弥生墓出土の土器について、報告書をもとに集成し、その時期区分と変遷を探る。
合戦物語絵巻の多角的研究（3／3年次）	合戦絵巻物を素材とし、書誌学的な位置づけを検討すると共に、有職故実、武器・武具研究者などを交え多角的に読み解く。	「六波羅合戦絵巻」に関して、有職故実研究、武器・武具研究の視点からその特徴を探る。また、館蔵の「後三年合戦絵詞」の制作・写本の状況、伝来の過程など書誌的な位置づけの分析を、引き続き行う。
印融著作の基礎的研究（3／3年次）	横浜出身の学僧印融の著作の写本・版本を書誌学的に分析し、所蔵本のもつ価値と類本中の位置づけを明らかにする。	印融本の書誌学的検討・分析、所在確認を行い、まとめを作成する。
誠拙周樗関係資料の研究 （1／3年次）	近世後期に白隠らとともに臨済禅復興に尽力した誠拙周樗について、誠拙資料とともに古月派の関係資料も収集し、近世後期に横浜で活躍した禅僧たちの事績を明らかにする。	誠拙および古月派に連なる臨済禅僧の資料の所在確認を行う。
軍記物語の研究 （1／3年次）	当館所蔵の軍記物語をとりあげ、その資料的位置づけを考察する。	数多くの軍記物語を比較することで、所蔵資料を分析する。
東海道屏風・絵巻の基礎的研究（3／3年次）	東海道を題材とした屏風・絵巻について、分類化及び作成年代の特定、その作成意図について調査する。	前2年間に行った東海道絵巻と東海道屏風の分析をふまえ、東海道絵巻・屏風の作成意図とそこに表現された観念を検討する。
基礎的調査研究2：地域資料に関する調査研究		
杉山神社関係資料の収集と研究（2／3年次）	古代から横浜において中心となる神社である「杉山神社」について、古代からの史料を収集・検討することで、各時代における神社の位置づけを明らかにし、歴史的過程を明らかにする。	杉山神社に関係する中世から近世に至る資料群の収集、整理をすすめる。また、式内社の論社となっている杉山神社に関する調査も合わせて行っていく。
浄土宗檀林資料の基礎研究（3／3年次）	市域の寺院資料や増上寺の入寺帳の分析により、浄土宗僧侶の活躍を明らかにする。	増上寺に所蔵される資料から、横浜地域関係の浄土宗寺院の資料を収集し、まとめを行う。
香蔵院珎祐記録の基	横浜市内に拠点をおいた鶴岡八幡宮	鶴岡八幡宮の経営に影響を持ち、神奈

礎的研究（2／3年次）	塔頭のひとつである香蔵院珎祐の記録から、室町時代の様子を明らかにする。	川湊付近に所領を持っていた香蔵院（保土ヶ谷区）の資料から、室町時代の横浜の姿を考察する。
武州金沢藩に関する基礎資料の分析（2／3年次）	武州金沢藩士萩原家文書中に含まれる藩庁文書を分析することにより、市域に本拠を有する唯一の藩（大名）である武州金沢藩（六浦藩・藩主米倉氏）の近世後期から明治初年の実態を検討する。	前年度より繰り越した親類書をふまえて、藩士家の出自と縁戚関係の分析を行うとともに、嘉永4年の日記の解説を行い、藩士家の生活・年中行事の概要を明らかにする。
日記・御用留の基礎研究（3／3年次）	村や宿場に残された江戸時代の日記・御用留を収集し、その内容を分析する。	これまで行ってきた「金川日記」の熟読を引き続き行い、内容分析を行うとともに、翻刻、出版作業を進める。
船釘の比較研究 （1／3年次）	和船の建造に欠かせない船釘について、横浜市と他地域との差異について、種類、製造、地域差などの視点から比較研究を実施する。	横浜市内の船釘について収集調査を実施するほか、他地域の事例について文献調査などを実施する。併せて比較のため他地域の現地調査も実施する。
市域の民俗調査 （1／3年次）	市民協働事業の一環として、市民調査員（仮称）を組織し、市域の民俗調査を実施する。	実際の調査の前段階として、民俗学的な視点を意識してもらうために「民俗の見方、調べ方」（仮題）という講座を実施し、その受講生から市民調査員（仮称）を組織する。
横浜の歴史をテーマにした調査研究：企画展に生かすための調査研究		
ムラに生きる人々	各時代の人々の生活・信仰などの諸相を明らかにする。	企画展に関する準備を行う。
人と物の流れ	陸の道・海の道を通してもたらされる文化の伝播などを明らかにする。	企画展に関する準備を行う。
変わる横浜の姿	開発による景観の変化や人々の生活の変遷などを明らかにする。	企画展に関する準備を行う。

(2) 調査報告書の作成・刊行

調査研究で蓄積した基礎データ等の公開を行う。(800部)

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

(1) 展示物やビデオ機器類の保守点検、修繕等の管理を行う。

(2) 常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行う。**（観覧者見込数 77,600人）**

(ア) 収蔵資料ミニ展示：スタディサロンに、定期的に収蔵資料の展示紹介コーナーを開設し、学芸員が解説を行う。

(イ) 学芸員による常設展示解説：毎月最終土曜日に各時代の担当学芸員による展示解説を行う。

(ウ) 教員の要望により、エデュケーターが展示を教材とした授業例を実演する。

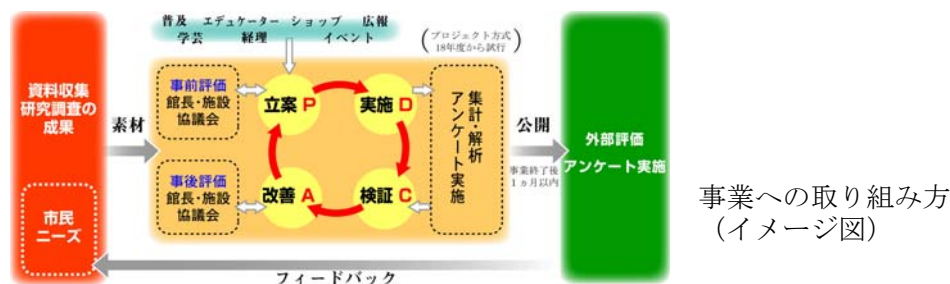
(エ) 展示解説員の配置にむけての検討を進める。

(3) 開館以降の資料収集などの成果を活用し、来館者の多様な要望に応えられるような全面更新計画の検討を進める。

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

<プロジェクト方式の実施>

これまで個々の事業として実施していた企画展・講座・体験学習・イベント・広報などを企画普及事業として、専門職員・事務職員混成によるプロジェクトチームにより、企画立案から実施・評価まで総合的に取り組みます。



事業への取り組み方
(イメージ図)

(1) 企画展・特別展

事業名称（仮称）／開催期間	観覧者見込数	目的・意図、実施内容
企画展 「絵でみる考古学 —早川和子原画展— 平成20年4月 5日（土） ～5月18日（日）	20,000人	○旧石器時代から平安時代に及ぶ早川氏の原画作品約100点を一堂に集め、復元図からみた埋蔵文化財・遺跡・日本の歴史を理解してもらう展示 全国巡回展の受け入れ ○小学生をターゲットにしたパネル併設 ○講演会・フロアレクチャーの開催 ○図録、子ども向け解説シートの作成 ○関連事業
企画展 「古代のムラのカミ・ホトケ」 平成20年5月31日（土） ～7月 6日（日）	20,000人	○横浜市域を中心に南武蔵・相模地域における古代のムラの信仰形態の特徴を紹介 ○小学生をターゲットにしたパネル併設 ○講演会・フロアレクチャーの開催 ○図録、子ども向け解説シートの作成 ○関連事業
企画展 「お願い！かみさま、ほとけさま—小絵馬に見る人々の願い—」 平成20年7月26日（土） ～9月15日（月）	10,000人	○神社仏閣に奉納された絵馬を中心に、願いを叶えるために人々が行ってきた信仰を紹介 ○小学生をターゲットにしたパネル併設 ○講演会・フロアレクチャーの開催 ○図録、子ども向け解説シートの作成 ○関連事業
特別展 「華蔵台遺跡と縄文後期社会」	10,000人	○港北ニュータウン地域における縄文後期の中心遺跡である華蔵台遺跡の発掘成果から

平成20年10月 4日(土) ～11月24日(月)		採集経済社会の崩壊をともなう社会変化などを解明 ○フロアレクチャーの開催 ○図録の作成 ○関連事業
「平成20年度横浜市指定・登録文化財」展 「横浜の遺跡」展 平成20年12月6日(土) ～平成21年1月12日(月)	3,200人	○市域の文化財を身近なものとして感じてもらおうことを目的として、横浜で新しく指定・登録された文化財を公開する展示会を開催。埋蔵文化財センター主催「横浜の遺跡展」とあわせて開催。無料。 ○研究講座の開催 ○関連事業
企画展 「宿場と街道の事件簿―日記・御用留からみる近世後期の横浜」 平成21年1月31日(土) ～3月15日(日)	6,500人	○近世後期の横浜を庶民の視点からとらえ直し開港だけではない当該期の横浜の姿を紹介 ○「横浜古文書を読む会」で数年来解読してきた日記や御用留の成果を還元 ○フロアレクチャーの開催 ○図録の作成 ○関連事業

(2) 講座・講演会

項目	参加者見込数	目的・意図
古文書解読教室	各回40人	初心者を対象に、専門職員を講師として古文書の解読講座を開催する。連続10回。
古文書解読教室(上級編)	各回45人	上級者を対象に、専門職員を講師として古文書の解読講座を開催する。連続10回。
古代史講読講座	各回45人	専門職員を講師として古代史の基礎文献を読み解く。連続5回。
開館記念特別講演会	170人	博物館の開館日を記念して特別講演会を行う。
土器づくり教室	各回20人	港北ニュータウン地域内発見の縄文時代の土器をモデルに複製を試みる。市民協働の一環として、専門職員と横浜縄文土器づくりの会とが指導にあたる。連続4回。 ○関連事業 体験学習室展示

(3) 普及体験

項目	参加者見込数	目的・意図
体験学習(日常)	60,000人	体験学習室で、銅鐸・火打ち石などに直接触れ、歴史を実感できるようにする。近隣小学校と連携して利用促進を図る。無料。

子供の居場所	5,000人	体験学習室のプログラム（「江戸時代の旅」「ちょっと昔を探してみよう」）に合わせ、子ども向けのワークシートなどを用意し、放課後や週末の子どもの居場所を提供する。無料。
地域デイケアセンター等との協働		地域のお年寄りの方々に昔の道具に接してもらったり、体験をお話してもらったりなど、回想法を取り入れた事業を施行し、地域福祉に貢献すると同時に、地域とのふれあいの場の提供を目指す。
体験学習（催事）	1,000人	野外施設の工房・体験広場等で、小学生の親子を中心に各種の体験をとおして、遊びながら歴史に触れる教室を開催する。勾玉作り、土偶作り、紙すき、ぞうり編み他を実施。21日42回開催。
土器野焼き見学	300人	野外施設の体験広場で土器の野焼きを行い、見学者に野焼きの迫力を感じてもらう。年3回。無料。
竪穴住居に泊まろう	30人	遺跡公園の復元住居に家族単位で泊まる体験。9月1～2日開催。
デリバリーパック		火起し道具や回想法グッズなどを貸し出す。 有料による貸出を検討する。
博物館たんけん隊	各回20人	夏休み期間中、児童生徒を対象に専門職員による博物館の仕事や見どころの解説など、博物館への関心を深めるための教室を開催する。8月6・27日、6回開催。無料。
土器づくり教室作品展	1,000人	体験学習室を利用して、作品展を開催するとともに、土器づくりの方法を展示する。平成20年3月末～4月上旬に開催。無料。
ふるさと横浜探検	各回30～35人	横浜市内外の史跡・博物館を巡り、専門職員や外部講師が解説にあたる。年間6回（このうち3回はガイドバスツアー）。 今年度は、開港150周年企画として宿泊ツアーを実施する。



歴史講座



体験学習

(4) 集客イベント等

項目	内容
ラストサタデープログラム	学芸員による常設展示解説 3(2)記載のとおり

	新たな顧客層獲得とリピート率向上のために、4～6月の最終土曜日や連休に小学生向け体験ミニイベントを開催する。
	新たな集客対策のためのイベント事業を検討・企画する。
エントランスコンサートの実施	歴史博物館をより身近なものとして利用していただくため、博物館のエントランスを会場にコンサートを開催する。年2回。無料。
開館記念日行事	1月31日の開館を記念して、各種行事を実施する。



学校との連携



イベント
(エントランスコンサート)

(5) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアの活用	市民ボランティアにより、博物館野外施設の解説ガイドを行うとともに生涯学習支援を行う。第5期生 60人（1期2年間）今年度は第6期生60人を募集する。 学校社会科見学時の体験コーナー、ラストサタデープログラム等の集客イベントでの活動、及び常設展示ガイドの実施に向けて、準備を行う。
地域デイケアセンター等との協働	4（3）記載のとおり。
出張事業	学校等の要望に応じて行う土器づくり指導は、市民団体との協働で実施する。
古文書解読	横浜古文書を読む会等と協働して、館蔵古文書を読み解き、企画展示等につなげていく。

(6) 学校連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	エドゥケーターを中心に、児童生徒向けテキスト・教員向けテキストを活用し、学校の博物館利用を促進する。また、「学校の博物館利用研究会」を開催し、学校との連携の強化を図る。 学校団体受付拡充のため、4・5月の月曜開館を実施する。 学校利用件数見込 470校
	各施設の学校利用促進のためのIT活用等の検討を行う。
出張授業	社会科授業、土器づくり指導や体験学習などを学校等の要望に応じて行う。

教員研修	教育委員会と連携し、展示を活用した学習法や体験学習カリキュラムの研修を実施。8月1日。60人。
------	---

(7) 広報・広聴

項 目	内 容
広報	市営地下鉄駅構内の広報案内看板による広報（6駅） 市営地下鉄の車内放送による広報 インターネットによる広報（ホームページ・メールマガジン発信） 一般新聞・雑誌等への広告掲載による広報 FM放送への話題提供 区民まつりへの出店参加による広報（都筑区） 他館と連携した広報活動の実施
地域文化財情報の発信	区や学校等と連携し、講座・講演会の開催・広報印刷物発行等を行う。
市民ニーズの把握	アンケートやモニタリングを行い、顧客満足度と市民ニーズを把握し、評価・改善のためのデータを作成する。

(8) 出版

項 目	内 容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレットを作成する。 歴史博物館催し物案内を作成する。（年2回）
出版物発行	「年報」（発行2,000部） 「横浜市歴史博物館ニュース」（発行20,000部、年2回） 「横浜市歴史博物館資料目録」第17集（発行700部） 「紀要」第13号（発行800部） 完売して在庫の無い展覧会図録の増刷を検討する。

(9) 実習生・研修生の受入

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。夏期の集中型と1年を通じた分散型の2回に分け実習を行う。約20人。
社会研修・職場体験	大学の社会研修や中高生の職場体験などを受け入れる。無料。

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

(1) 収蔵資料等データ入力

館蔵品、寄贈・寄託資料及び市域指定文化財のうち、データベース化（2,000点）・インターネット公開を促進する。

(2) 映像資料の公開

常設展示室映像コーナーで、横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開する。

ビデオの学校・地域への貸出し方法を検討する。

(3) 文化財情報システムの運用

インターネット等による文化財情報の管理・発信や、グループウェアに関わる機器類の保守を行う。

インターネットを利用した情報提供を行う。**アクセス件数：72,500件**

(4) ホームページを利用した市民ニーズの把握

ホームページ上で、施設に対する市民のニーズを把握する。

6 歴史博物館管理運営事業（寄附行為第4条第7号）

横浜市歴史博物館及び野外施設の管理運営を行います。

- (1) 横浜市歴史博物館及び野外施設の管理
- (2) 研修室・講堂、エントランスホール等の貸出及び稼働率の向上
- (3) 広告料収入等の確保
- (4) 歴史博物館の来館者用駐車場を運営する。（館内42台、屋外140台、バス用6台）

IV 開港資料館事業

(事業予算 203,643千円)

[運営方針]

横浜開港資料館は、開港期を中心に横浜の歴史に関する資料を収集・整理・保存し、閲覧や展示、講座・講演会、出版などを通じて市民に広く公開してきました。

平成21年に横浜は開港150周年を迎えようとしており、当館が果たす役割は一層大きなものになっています。今年度の各種事業は、開港150周年のイベントとして位置づけ、「ハリスと各国外交団」展や「花と緑の横浜」展を開催するとともに関係の講座等を実施します。平成21年1月末から開催する「翻訳聖書出版と横浜」展は、「開港150周年記念事業」の冒頭を飾るものとして、横浜開港資料館の存在意義をアピールしていきます。

一方、市民と協働で事業にあたる横浜郷土史団体連絡協議会も順調に発展しています。開港150周年事業についても協議会との協働でシンポジウムや講演会などの事業を計画しており、今年度はその準備会を発足させます。このほかのプレ事業としては、「たまくす」育て親事業、新聞各社との連載企画を行うほか、横浜市および市関係団体が実施する開港150周年記念事業にも協力していきます。

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

(1) 資料の収集

項目	目的・意図
資料の寄贈・寄託	地域の貴重な歴史資料の流出・滅失・破損を防ぐため、市民に理解と協力を求めながら、積極的に歴史資料の寄贈や寄託を受ける。
資料購入	開港期を中心とする横浜の歴史に関する国内や海外の資料、展示用資料、新聞・雑誌、文献等を、広く目配せしながら購入する。
資料の撮影	原本で収集できない歴史資料を、マイクロフィルム撮影により収集する。また、原本の保存や閲覧利用の必要上、原本資料を撮影して複製本を作成する。

(2) 資料の整理・公開

収集した歴史資料を、それぞれ資料群に応じた合理的な分類方法によって整理し、目録作成のうえ閲覧利用に供する。

閲覧室での一般利用に適さない絵図・古写真・地図など画像資料はデジタル化し、閲覧室でコンピュータ画面により公開する。

(3) 資料の保管

資料は、常時温度20～23度、湿度50～60%を保った収蔵庫で保管する。

収蔵資料のうち、劣化或いは破損した資料は専門業者に委託して補修を行い、大型の器物等資料

は、外部の資料倉庫を借り上げ保管する。また、通年、収蔵庫や展示室、閲覧室などにおける昆虫やカビ、塵芥などの測定調査を行い、資料環境の維持管理を図る。

(4) 資料等の貸出

収蔵資料の普及と有効利用を図るため、類似施設等での展示会へ資料を貸し出す。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

(1) 調査研究

歴史資料の収集・整理や歴史・資料の研究、また閲覧や企画展示等公開普及事業など、資料館業務を遂行する上で必要な調査研究を行います。

項目	目的・意図	今年度の成果目標
【開国・開港期の歴史】 ・幕末・明治期の史跡と古記録の研究 (3/5年次)	幕末～明治初年の横浜の歴史に関する資料や史跡の所在を明らかにする	①開港150周年に関する資料の基礎調査 ②平成21年度第1回企画展示の準備 ③新聞連載などでの成果の公表
【横浜近代政治史】 ・横浜市政史の研究 (3/5年次)	明治～震災復興期の市政資料の調査を行い、周辺旧町村の実態を明らかにする。	①明治期の周辺農村資料の分析 ②明治期の市政を地主派資料を中心として調査 ③震災復興期の市政資料の調査
【横浜近代経済史】 ・明治・大正期の貿易・産業に関する研究 (3/5年次)	明治・大正期の貿易・産業に関する研究及び横浜の地場産業である花卉生産と輸出に関する状況を明らかにする。	①阪田安雄文庫の整理、茂木商店関係資料の整理 ②横浜植木関係資料の整理から企画展示に結びつける ③盛り場伊勢佐木町かいわいの分析
【横浜近代文化史】 ・横浜の出版文化に関する研究(3/5年次)	横浜における文化史を出版、教育史の視点で研究する。	①和装本(横浜本)の書誌データの集積 ②館蔵和装本の整理から「翻訳聖書」展に結びつける
【横浜近代欧米関係史】 ・横浜外国人社会に関する研究(3/5年次)	横浜に在住した外国人社会の状況について総合的に研究する。	①居留外国人(B. H. チェンバレンやW. B. マーツ他)旧蔵資料の調査・整理と分析 ②各国外交文書(当館で複製で収集済み)中の居留地社会の変容に関する文書の調査 ③ドン・ブラウンコレクションをもとにしたブラウン研究
【横浜近代アジア関係史】 ・横浜華僑・華人に関する研究(3/5年次)	横浜の華僑史について総合的に研究する。	①華僑・華人のオーラルヒストリー ②中華街関係団体との連携 ③平成21年度企画展示の準備

【歴史情報に関する研究】 ・明治・大正期の横浜関係情報に関する研究 (3/5年次)	横浜関係新聞などから、歴史情報を集積、整理し、閲覧室等での情報発信が適切に行われるようにする。	①明治・大正期発行の新聞、雑誌からの横浜関係記事の集積、整理 ②平成21年度企画展示の準備
*歴史資料の保存に関する調査・研究は、資料の保存管理、修復事業の過程で実施する。		

(2) 調査研究の委託

内部の専門職員だけでは実施出来ない調査研究を、外部の専門家団体と協働して行い、資料の収集・整理、普及などの業務に反映させる。

項目	目的・意図	今年度の成果目標
横浜近世・近代史分野の調査研究	幕末・明治初年の貿易史と古記録に関する調査研究(3/5年次)	①幕末・明治初年の貿易関係史料の調査と分析 ②江戸期の古記録に関する調査(市内旧家が所蔵する文書を中心に)
	横浜市政及び周辺郡部の調査研究及び横浜の貿易・経済史の調査研究(3/5年次)	①明治・大正期の古記録に関する調査(市内旧家が所蔵する文書を中心に) ②周辺農村の産業、開発についての調査研究
横浜国際関係史分野の調査研究	大正・昭和期の横浜在住外国人社会の研究 (1/2年次)	①関係資料の所在調査と資料分析 ②在住外国人のデータベース化と分析 ③オーラルヒストリーの実施

(3) 研究紀要の発行

「横浜開港資料館紀要」第27号を発行する。(発行1,250部)

3 常設展事業(寄附行為第4条第2号)

(1) 常設展示室1「横浜開港への道」、及び常設展示室2「街は語るー開化ヨコハマー」の2室の維持管理を行う。(観覧者見込数 59,000人)

(2) 展示等事業の広報

項目	内容
広報誌発行	館報「開港のひろば」第100～103号を発行する。 (発行部数:13,000～15,000部)
リーフレット類作成	開港資料館案内パンフレット・催し物案内を作成する。
その他広報	市営地下鉄駅構内の案内看板による広報(関内駅) みなとみらい線駅構内の案内看板による広報(日本大通り駅) 市営バスの車内放送による広報 インターネットによる広報 市内観光案内所、ホテルへのチラシ訪問配布 新聞・雑誌等への記事掲載による広報

(3) 新収集資料コーナー

常設展示室に特別コーナーを設け、寄贈、寄託された資料、修復された資料等を随時紹介する。



新収集資料コーナー



展示の様子

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

(1) 企画展の実施

館内プロジェクトチームにより実施

企画展名称（仮称）／開催期間	観覧者見込数	目的・意図
開港150プレリュード⑥ 「ハリスと各国外交団」展 平成20年4月23日（水） ～7月27日（日）	21,500人	本年は、1858（安政5）年に幕府がアメリカをはじめとする欧米各国と通商条約を締結してからちょうど150年となる記念の年である。最初の調印国であるアメリカの初代駐日総領事、ハリスと初期の対日外交を担った各国外交使節の活動をとりあげ、開港期の外交の諸相を紹介する。
来航100周年記念 「白船来たる アメリカ大西洋艦隊と1908年の横浜」 平成20年 7月30日（水） ～10月26日（日）	14,000人	黒船から50年あまり、1908年10月、アメリカ大西洋艦隊の「白船」が世界一周航海の途中で横浜に来航した。当時、日本は日露戦争に勝利し、新たな近代国家へと踏み出す岐路にあった。白船来航にわく100年前の横浜の姿を、当時の記念絵葉書や新聞報道などを通して紹介する。
開港150プレリュード⑦ 「花と緑の横浜」展 平成20年10月29日（水） ～平成21年 1月25日（日）	12,000人	季節の花を愛で、緑に親しむことは、庶民のポピュラーな楽しみであった。江戸期以来の花の名所、都心部での花と緑の楽しみ方、菊花の改良、公園・庭園・遊園地・花壇、植物の輸入と輸出、日本庭園の海外での普及など、近代横浜における花と緑の物語を紹介する。
開港150周年記念① 「翻訳聖書出版と横浜」展 平成21年1月28日（水） ～4月19日（日）	11,500人	横浜は、日本で最初に翻訳聖書が刊行された地であり、明治初頭から20年代まで、横浜では様々な聖書が刊行された。そこで、開港後来日し、聖書翻訳を手がけた宣教師たちの軌跡の中

		心に、当時の出版文化や世相を振り返る。
企画展関連事業		企画展開催にあわせ、記念講演会・講座を開催する。また、「花と緑の横浜」展の図録を刊行する。
平成21年度以降開催予定の企画展関連調査		企画展の準備のため、収蔵資料や他施設の資料について調査する。

(2) 講座・講演会ほか

項目	参加者見込数	目的・意図
企画展記念講演会	80人	「ハリスと各国外交団」展に関連したテーマで開催する。 会場：横浜開港資料館講堂
企画展記念講座	80人	「花と緑のヨコハマ」展に関連したテーマで、講座を開催する。 連続4回 会場：横浜開港資料館講堂
市民団体との共催講座	各80人	横浜市郷土史団体連絡協議会との共催で、地域に出向き連続講座を開催する。 連続5回、2期
体験資料講座	50人	所蔵資料の複製など実際に手にとってみる体験なども交えながら、その資料を教材とした講座を開催する。 連続5回 会場：横浜開港資料館講堂

(3) 出版物の作成

資料収集や整理、調査研究、企画展など資料館事業の成果を広く市民に紹介するため、各種出版物を作成し、廉価で頒布する。また、需要の多い在庫切れ出版物を増刷する。

出版予定

広報誌 横浜開港資料館報「開港のひろば」第100～103号（発行部数：13,000～15,000部）

展示関連出版物「花と緑の横浜展図録」（500部）

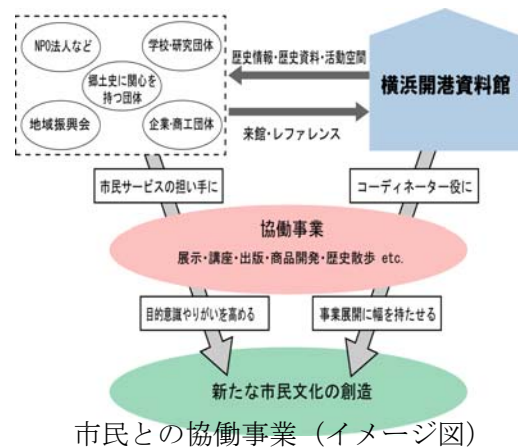
論文集「ドン・ブラウン関係論文集」（700部）

(4) 市民協働・学校連携

(ア) 横浜市郷土史団体連絡協議会の活動を指導・支援する。

郷土史に関心を持つ団体が情報交換し、広範な活動ができるように、当館が中心となり設立した横浜市郷土史団体連絡協議会（現在、市内18区56団体）とともに、協働事業（講座・シンポジウム・共同展示・共同出版など）を展開していく。また、平成21年度に同協議会と協働で実施する予定の開港150周年事業（シンポジウム、講演会、パネル展示）について協議・準備を行う。

(イ) 地域振興会（横浜中華街発展会協同組合など）、学校・研究団体、NPO法人、企業・商工団体などと協働事業を行う。



(5) 外部組織への資料提供および助言・監修

(ア) 新聞連載

新聞連載を行い、当館および当館蔵資料を広く周知し、研究成果を公表する。

(イ) 助言・監修

公共施設や企業へ資料を提供するとともにその作成物について、助言・監修を行う。

(6) 資料館館務実習

学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。受入数：8人程度

(7) 各種情報のホームページ等による発信

(ア) 画像資料等のデジタル化等

古写真・絵葉書を中心とした画像資料のデジタル化、また収蔵資料のデータベース作成を進める。

(イ) ホームページによる情報提供

ホームページの内容・体裁の改善をすすめ、開館時間やアクセス、企画展示や講座、出版など最新の資料館情報を提供する。

(ウ) ホームページによる市民ニーズの把握

ホームページ上に寄せられた市民からの意見や要望を、事業や企画の改善に反映させる。

アクセス見込件数 85,000件

(エ) 電子メールによる情報発信

企画展示、講座などの催し物情報を希望者に電子メールで発信する。

(8) 複製フィルムの貸出

市民や企業（出版社、テレビ局など）の求めに応じ所蔵資料の複製を有料で提供する。提供の方法は、複製フィルムをデジタル化しCD-ROMで提供する。これにより資料情報の発信を促進するとともに収益の増加を図る。

(9) 資料閲覧室の運営

閲覧室において、収蔵資料を一般閲覧に供し、専門職員によるレファレンス、及び資料のコピーサービスを行う。 **閲覧室利用見込件数 2,800件**

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

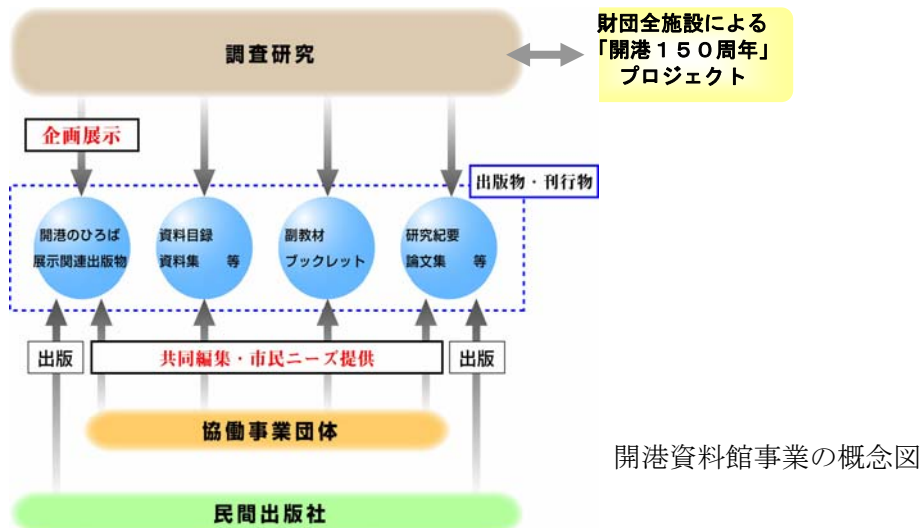
インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するための情報システム機器類の運用・保守を行います。

6 開港資料館管理運営事業 (寄附行為第4条第7項)

横浜開港資料館の管理運営を行います。

- (1) 横浜開港資料館の施設設備の維持管理を行う。
- (2) 広告料収入等の確保

有料広告獲得や、施設の有料貸出に向けて環境整備を行う。



V 都市発展記念館事業

(事業予算 87,041千円)

[運営方針]

横浜都市発展記念館は、現在の横浜市の骨格が形成された昭和戦前期を中心に、都市横浜のあゆみを「都市形成の歴史」「市民生活の変遷」「横浜が育んだ文化」の三つのテーマに即して解明し、その成果を展示や出版・講座などの事業を通して紹介する施設です。

開館5周年を迎えた今年度は、より市民に愛される施設とするために、ユーラシア文化館と共同で、市民から資料を提供していただき、「みんなでエキスポ」という企画展示を実施します。また、これまでの調査研究の蓄積を活かした展示として「横浜ステーション物語」を実施するとともに、開港150周年に向けて、企画展示「横浜建築家列伝」の準備を行います。

将来に備えた事業としては、歴史的建造物や昭和期の市街の景観、市民の暮らしを物語る映像資料のデータベース化を進め、横浜の都市形成の歴史をより具体的に理解できるよう、その成果を公開・普及していきます。

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

(1) 資料の収集と保管

昭和期を中心に、都市形成、市民の暮らし、横浜の文化に関する資料を収集し、保存する。

項目	目的・内容等
寄贈・寄託(受贈・受託)	資料を流出・滅失・破損から守るため、市民に理解と協力を求め、寄贈もしくは寄託をしていただく。
購入	古書店などから購入して収集する。 【購入予定】 建築・土木史、交通史、生活史・文化史関係資料
複製による収集	原資料で収集できないものをフィルム撮影等により収集する。 【収集予定】 建築・土木史、交通史、生活史・文化史関係資料
修繕	傷みの激しい文献資料、出土遺物などの修復を行う。
保管	資料は館内収蔵庫で保管する。ただし、館内収蔵庫に収まらない器物等の大型資料は、外部倉庫を賃借して保管する。 所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理する。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査を定期的に行う。

(2) 画像資料の整理・公開

写真・絵葉書・地図・図面などの画像資料のデジタル化を進める（平成21年度公開予定）。

(3) 複製資料の提供

複製資料（所蔵資料の写真）を提供し、出版・放送・展示や市民の学習など、各種用途での利用に応じる。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

(1) 調査研究

項目	目的・意図	今年度の成果目標
近代遺跡調査（3／3年次）	市内で発見される近代の埋蔵物について、遺構調査および出土遺物の採集・研究を行い、近代遺跡の観点から横浜の都市形成史を明らかにする。	本年度はジェラール瓦を模倣したとみられる明治期の洋瓦の調査を実施する。また随時、遺構調査や遺物の採集に取り組み、資料化を進める。
横浜建築博覧データベースの作成（2／3年次）	関内・山手地区に建設された構造物の記録を、明治・大正・昭和の各時代について集積し、「デジタルマップ」の基礎情報を整理する。	本年度は明治・大正期の関内地区を対象とし、図書・雑誌類に掲載された写真を中心にデータベースを作成する。
生活用具から見た昭和の生活史に関する調査（3／3年次）	市民の手元に残る昭和の戦前期から戦後期の生活用具を収集し、昭和の生活史を明らかにする。	市民や企業から資料を集めて開催する開館5周年記念展示「みんなでエキスポ」をもとに、資料の記録化をおこない、調査を完了する。
昭和期の写真・映像に関する調査（1／3年次）	昭和期の写真・映像の整理、デジタル画像への変換、および分析を行う。	本年度は写真・映像の整理、デジタル画像への変換を進める。
大倉精神文化研究所の建設に関する共同研究（3／3年次）	（財）大倉精神文化研究所所蔵の市指定文化財「大倉精神文化研究所建設関係資料」をもとに、同研究所の建設に関する共同研究を進める。	同研究所との共同研究プロジェクトによる研究会や資料調査を行う。その成果は来年度の開港150周年記念展示「横浜建築家列伝」で公開する。

(2) 紀要の発行

調査研究成果をまとめて、『横浜都市発展記念館紀要』第5号を編集・発行する。

（発行予定1,000部）

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

(1) 常設展示の運営と展示設備の維持管理を行う（観覧者見込数 年間19,000人）。

(2) 展示内容の普及をはかる（「4 企画普及事業」参照）。

(3) 「都市形成」や「市民のくらし」ゾーンの展示替えを行う（実物展示資料の入れ替え、展示パネルの補充など）。

(4) 新収資料や出土遺物などを随時、「掘り出し物」コーナーで紹介する。

(5) 「旧市外電話局」第一玄関の積極的な公開・活用を行う。



掘り出し物コーナー

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

（1）特別（企画）展示

展示名称（仮称）／開催期間	観覧者見込数	目的・内容
開館5周年記念 「みんなでエキスポー 小さな万国博覧会一」展 平成20年6月5日（木） ～8月31日（日）	6,000人	開館5周年を記念した都市発展記念館とユーラシア文化館の共催展示。市民や企業から思い出の品を募集し展示する。 【関連事業】（1）写真展の開催（2）歴史散歩の開催（3）中庭イベント
「横浜ステーション物語（仮）」展 平成20年9月13日（土） ～平成21年1月12日（月） *前期・後期の展示替え休館あり	5,000人	横浜の鉄道と駅、まちとの関わりの歴史を紹介し横浜の都市形成史への理解を深める。 【関連事業】（1）展示図録の編集発行（2）映画会（3）日本大通り駅コンコースでのパネル展示
準備事業		次年度以降開催予定の企画展示、特に開港150周年記念「横浜建築家列伝」などに向けて準備を進める。

（2）講座・講演会・歴史散歩等

項目	参加者見込数	目的・意図
ガイドツアー「歩いて学ぶ横浜の歴史遺産」	30人	開館5周年企画として、親子を対象にした歴史散歩を実施する。企画はユーラシア文化館と共同で行い、両館の専門職がガイドすることで、幅広い視点で学習のきっかけを提供する。7～8月実施。全3回。
ガイド養成講座	50人	横浜観光コンベンションビューローやNPO法人横浜シティガイド協会と協力し、当館の調査研究員による解説と組み合わせたガイド・ツアーを行い、ガイドを養成するための講座を実施する。

（3）学校連携事業

項目	目的・意図
学校連携事業	企画展示ごとに、財団エドゥケーターと協議して学校側のニーズを把握し、企画に反映させるとともに、小中学生を対象とする広報を行う。



「みんなでエキスポ」展への出品を募るチラシ



ガイドツアー

(5) 広報活動および調査

項 目	内 容
広報誌（館報）発行	『ハマ発Newsletter』の編集・発行 （第11～12号、各10,000部） 第11号は開館5周年に合わせて、ユーラシア文化館広報誌との合併号とする。
印刷物作成	企画展示案内（ポスター・チラシ）、「催し物案内」（リーフレット）の作成
ホームページの運営	インターネットによる最新情報の案内、展示内容・資料などの解説、アンケート調査
メールニュースの配信	希望者に最新情報の案内を電子メールで配信する。
マスコミ対応	・放送（テレビ、ラジオ等）、新聞・雑誌（タウン誌などを含む）の取材対応と情報の提供 ・フィルム・コミッションへの協力 ・広告の掲出（新聞・雑誌、地下鉄車内など）
外部機関との提携	・鉄道駅構内へのポスター掲出、チラシ等配置 ・観光案内所、ホテル、旅行代理店などへの説明訪問、印刷物配布 ・観光・地域振興等関連団体への参加 ・スタンプラリー等による集客 横浜フランス月間2008（6/1～30）参加／横浜グランドミュージアムH20年度プロモーション参加（横浜コンベンションビューロー主催）／ミュージアム・クイズラリー参加（夏季、神奈川県博主催）
市民ニーズの把握	実施事業ごとにアンケート調査を行い、利用者の満足度と市民ニーズの把握を行う。

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

(1) 収蔵資料等データ入力

収蔵品、寄贈・寄託資料のデータベース化を図る。

(2) ホームページを利用した市民ニーズの把握

ホームページ上で、施設に対する市民のニーズを把握する。

ホームページアクセス件数見込 30,000件

6 都市発展記念館管理運営事業（寄附行為第4条第7号）

横浜都市発展記念館の管理運営を行う。

(1) 建物設備の管理

(2) ミュージアムショップの運営

(3) 施設の有料貸出に向けての環境整備

VI ユーラシア文化館事業

(事業予算 90,325千円)

[運営方針]

横浜ユーラシア文化館は、ユーラシア諸地域の人々や文化の交流に関する調査研究を行い、その成果を展示、出版、講演会、イベントなどを通して公開する施設です。

今年度は、都市発展記念館と共に開館5周年を祝う年として、市民に参加していただく企画展示「みんなでエキスポ」を両館共同で開催します。また、西アジアを中心とした館蔵資料と遺跡紹介の企画展示「ユーラシア文化館収蔵品と遺跡の写真展－西アジア篇－」を、初めての試みとして実施します。さらに、開港150周年にあたる21年度の企画展示「東西交流の証」の準備を進めます。

継続して行う事業としては、インターネット蔵書検索OPACの冊数を増やすとともに、ホームページで多くの画像に親しんでもらえるよう収蔵資料のデータベースを拡充し、市民への公開、サービスの向上に努めていきます。

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

(1) 資料収集・保存

項目	目的・意図
資料の寄贈・寄託	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守る。
資料購入	常設展で活用しうる資料や、調査研究に資する資料を収集する。
資料の保管	資料を館内外の収蔵庫で適切に保管する。
資料修繕	文献・資料の修復を行う。
環境調査	収蔵庫など館内の環境調査を行い、必要に応じて収蔵資料の燻蒸等の対策をとる。

(2) 資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討し、整理を行う。

(3) 文献資料の整理

所蔵資料の一方の柱である文献資料の公開に向け、特に貴重な元大英博物館東洋部長バジル・グレイ旧蔵書と漢籍から優先的に整理・分類を行う。整理が終わったものから順次公開していく。

項目	目的・意図
バジル・グレイ旧蔵書	蔵書の分類を行う。
洋図書・和図書	書誌データを入力し、データベースを構築する。インターネットでの蔵書検索（OPAC公開）を拡充する。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

(1) 調査研究

項目	目的・意図	今年度の成果目標
「ユーラシアの造形」 関連資料の研究	関連機関との共同で、収蔵資料、及び 関連資料の調査研究を行う。	引き続き、調査結果をデータベース化 し、蓄積する。

(3 / 5年次)	・共同研究(継続)	
メソポタミア楔形粘土板文書の研究(6 / 8年次)	当館が所蔵する粘土板文書の調査研究を行い、展示や出版物、講座などを通して市民や子どもたちに楔形文字粘土板文書が使われたシュメール世界に対する理解を深めてもらう。 ・共同研究(継続)	楔形文字粘土板文書のデータベースを充実させる。あわせて、当館所蔵の書籍から粘土板文書やシュメールに関する文献資料、関連施設の資料を調査する。
横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査(2 / 2年次)	市民が保管するユーラシア各地の資料や近隣の史跡を調査し、展示のほか、関連企画である歴史散歩や広報誌の内容に成果を反映させる。	市民や企業から資料を集めて開催する開館5周年記念展示「みんなでエキスポ」をもとに、資料の記録化をおこなう。

(2) 資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討し、整理を行う。

3 常設展事業(寄附行為第4条第2号)

(1) 横浜ユーラシア文化館の常設展示室の維持管理を行う。(観覧者見込数 18,000人)

(2) 館報「News from EurAsia 横浜ユーラシア文化館ニュース」第10・11号を発行する。

(各10,000部)

(3) ニュース性、企画展示とのつながり、関連機関との連携、市の施策を考慮に入れた展示替えを行う。

(4) 学芸員による解説(和英)を行う。実施は予約制とし、市民・利用者の希望に沿った解説内容となるよう努める。

(5) 展示室内・ライブラリーでの利用者・学芸員双方向コミュニケーションを図る。

(6) クイズラリーやスケッチなど常設展示室でのミニイベントを企画する。



企画展関連イベント民族衣装の試着体験



展示室内でのギャラリートーク

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

（1）企画展

企画展名称（仮称）／開催期間	観覧者見込数	目的・意図
開館5周年記念展 「みんなでエキスポ 小さな万国博覧会」展 平成20年6月 5日（土） ～8月31日（日）	6,000人	○開館5周年を記念したユーラシア文化館と都市発展記念館の共催展示。市民や企業から思い出の品を募集し展示する。 ○写真展の開催 ○歴史散歩の開催 ○中庭イベント
収蔵資料展 「ユーラシア文化館収蔵品と遺跡の写真展－西アジア編－」展 平成21年1月24日（土） ～4月12日（日）	2,500人	○館蔵資料を広く公開して館に親んでもらうとともに、文明の先進地である西アジアの文化への理解を深める。 ○コンサートの開催
企画展関連ギャラリートーク	各回20人	企画展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示室内で作品解説を行う。予約日に実施。無料
平成21年度以降開催予定の企画展調査		平成21年度企画展「東西交流の証」（仮称）開催のために資料調査などを行う。

（2）普及啓発

項目	参加者見込数	目的・意図
常設展関連ギャラリートーク	各回20名	常設展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示室内で作品解説を行う。予約日に実施。無料
企画展・常設展関連アート&グルメ		横浜中華街の店舗とのタイアップ企画で、館の活動内容・収蔵品に対する興味を深める。

（3）講座

項目	参加者見込数	目的・意図
ガイドツアー「歩いて学ぶ横浜の歴史遺産」	30人	開館5周年企画として、親子を対象にした歴史散歩を実施する。企画は都市発展記念館と共同で行い、両館の専門職がガイドすることで、幅広い視点で学習のきっかけを提供する。7～8月実施。全3回。

（4）広報出版・情報発信

項目	内容
出版物発行	広報誌「横浜ユーラシア文化館ニュース」を作成する。 (各10,000部発行、年2回)
リーフレット類作成・配布	横浜ユーラシア文化館案内パンフレットを配布し、催し物案内を作成・配布する。

その他の広報	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大通り駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・インターネットでの施設案内
	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内 ・フィルムコミッションへ積極的に協力し、当館を撮影場所としてPR ・タウン情報誌、旅行情報誌への施設案内掲載 ・市内観光案内所、ホテル・観光施設へのチラシ訪問配布 ・スタンプラリー等による集客 ・横浜フランス月間2008（6/1～6/30）参加 ・横浜グランドミュージアムH20年度プロモーション参加（横浜観光コンベンション・ビューロー主催） ・ミュージアム・クイズラリー参加（夏期 神奈川県立博物館主催）
市民ニーズの把握	実施事業でアンケートを行い、満足度調査と協働に対する市民ニーズの把握を行う。
学校連携事業の体制作り	財団エデュケーターを通じてのニーズ把握を行う。

（5）実習生の受け入れ

項目	内容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。約8名。

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

（1）収蔵資料等データ入力

各施設の収蔵品、寄贈・寄託資料及び市域指定文化財のデータベース化を図る。

（2）ホームページを利用した市民ニーズの把握

ホームページ上で、施設に対する市民のニーズを把握する。

ホームページアクセス件数見込 30,000件

6 ユーラシア文化館管理運営事業（寄附行為第4条第7号）

横浜ユーラシア文化館の管理運営を行います。

（1）横浜ユーラシア文化館の管理

（2）施設の有料貸出に向けての環境整備

Ⅶ 三殿台考古館事業

(事業予算 10,412千円)

[運営方針]

国指定史跡として保存されている三殿台遺跡は、学術的価値が高いだけでなく、市民参加の発掘調査の先駆けとして全国的に知られています。考古館は、縄文時代から続く歴史の証人である遺構と出土遺物を、適切に保存・管理して未来へ継承するための拠点となっています。そして、市民や来訪者にその意義を伝え、理解を深めるために、案内解説や体験学習などの活動を展開しています。

今年度は、市民ボランティアスタッフを養成し、収蔵された遺物の再整理にあたり、地域や市民と協働で新たな事業に取り組んでいきます。

1 資料収集・保管事業（寄附行為第4条第3号）

(1) 三殿台考古館保管の考古資料について整理を進める。

調査後収蔵されたままになっている出土品についての整理作業、現在展示中の遺物の補修・着色、新たな復元等を行い、資料の保全を図る。

2 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

(1) 常設展示室の維持管理を行うとともに、展示内容のリニューアルに向けた検討をする。

(2) 管理事務所2階も常設・収蔵品展示室とし、当遺跡の北側貝塚のはぎ取り資料の展示を行う。

3 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

(1) 普及啓発

項目	参加者見込数	目的・意図
展示解説の実施	12,000人	来館者にわかりやすい展示解説を実施する。
企画展の実施	200人	市民に地域の埋蔵文化財の情報を提供し、遺跡の存在を周知するとともに、文化財に対する保護意識を高める。 六ツ川台コミュニティハウス・埋蔵文化財センターと協働で開催。無料
体験学習の実施	400人	(1) 火起こし・勾玉作り教室 (実施7・8月 回数12回 各回10～15人) (2) 宿泊体験(実施7/26・27 家族単位の事前申込 6家族) (3) 土偶作り教室 (実施7/21・22 事前申込 各回15人) (4) 土器作り教室 第1回 平成20年9月28日～11月16日(4回) 第2回 平成21年1月18日～3月8日(4回) 製作後は作品展を開催

		(5) 勾玉作り・拓本教室（実施10・12・2月各1回 事前申込み 各回20人） (6) 火起こし・勾玉作り体験については随時実施する。
--	--	---

(2) 広報出版

項 目	内 容
リーフレット類作成・配布	解説パンフレット（大人及び子ども向け）を配布する。 当館の年間事業案内チラシを作成し、配布する。
その他の広報	インターネットを活用した広報を行う。

(3) 市民協働

項 目	内 容
三殿台遺物資料整理	埋蔵文化財に関心ある市民に、ボランティアとして整理作業に参加してもらい、接合・復元、修復作業を市民協働で実施する。 埋蔵文化財修復方法を体得してもらうとともに、市民の生涯学習意欲に対応する。

4 三殿台考古館管理運営事業（寄附行為第4条第7号）

三殿台考古館の管理運営を行う。

(1) 三殿台考古館の管理

(ア) 経常的な維持管理

施設内の清掃・草刈り・樹木の剪定。復元住居・住居跡保護棟・展示室を良好な状態に保つための維持管理を行う。

(イ) 開館時間の拡大

午前9時から開館し、4月～9月は午後5時まで、10月～3月は午後4時まで開館する。一方、職員の施設内の定期的巡回・消火器設置拡充などの危機管理対策を実施する。また、車椅子やベビーカーでも利用しやすいようにするため、階段スロープ化等の実施に向け、検討する。

(2) 飲料販売

施設利用者の利便を図るため、施設内で飲料を販売する。



復元住居と遺構保護棟



展示室

VII 特別会計事業

(事業予算 21,288千円)

[運営方針]

財団の自主性・自立性を高めるため、収益事業を行います。

1 歴史博物館事業（寄附行為第4条第8号）

(1) ミュージアムショップの経営

歴史博物館のミュージアムショップにおいて、企画展関連グッズ、教材、図書、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

(2) 駐車場の経営

歴史博物館の来館者用駐車場を経営する。(館内42台、屋外140台、バス用6台)

(3) 自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、歴史博物館に自動販売機を設置し、飲食物を販売する。

2 開港資料館事業（寄附行為第4条第8号）

(1) ミュージアムショップの経営

開港資料館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

(2) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、開港資料館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

(3) 喫茶室の運営

来館者の利便を図るため、付属棟に喫茶室を設け、その運営を専門業者に委託する。

3 都市発展記念館事業（寄附行為第4条第8号）

(1) ミュージアムショップの経営

都市発展記念館のミュージアムショップにおいて、研究紀要、関連図書等の出版物、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

(2) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、都市発展記念館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

4 ユーラシア文化館事業（寄附行為第4条第8号）

(1) ミュージアムショップの経営

ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、関連図書等の出版物、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

(2) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、ユーラシア文化館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。